



学校教育目標 主体的に考えて行動するー自律・創造・尊重ー

加古中 TIMES

笑顔あふれる学校 KAKOGAWA

Knowledge(知識・経験からの情報)
Action(行動・活動)
Kindness(親切・思いやり)
Open-minded(広い心・偏見のなさ)
Growth(成長・発展)
Appreciation(感謝・正しい評価)
Wellness(心身の健康・生活のバランス)
Answer(答えを見出す)

こつの不思議

先日の壮行会の日に、勝負の「こつ」について話をさせてもらいました。

「こつ(物事の要領・かんどころ)」を漢字で書くと「骨」になるそうです。もともとは体の中の「ほね(骨格)」のことですが、そこから転じて「物事を支える中心となるもの」や「要領、急所」という意味で使われるようになったそうです。「骨を掴む(コツを掴む)」のように使います。

日常会話の中では、「ポイント point」とか「ティップス tips」といった言葉で、物事の重要な部分を表現しているかもしれません。英和辞書では「point」は「要点、重点」などで、「tip」は「助言、警告」とありました。微妙に意味が違うのですね。似た意味の言葉として以下のような漢字表現もあります。



勘所(かんどころ)

三味線などの弦楽器で、正しい音を出すために指で押さえる場所が語源で、「外してはならない最も重要な所」という意味

要領

物事の肝心な部分を掴んで、効率よく器用にこなすためのこつツで、「どうやれば上手くいくか」という実践的なテクニック

要諦

物事の最も重要な「本質」「奥義」(理論的・深さ)絶対に外せない一番大切な「核心」や「秘訣」で、最も大切な点、肝心な秘密という意味

料理で例えるなら、「火加減や片付けのタイミングを上手く回すこつ」が要領で、「素材の旨味を最大限に引き出すという料理の根本的な目的・極意」が要諦、といったイメージになるかもしれません。

でも、考えてみると、「ポイント」や「勘所」「要領」「要諦」は、いずれも説明している側からのような気がして、自分がつかんだ「こつ」とは少し違う感じがします。不思議な感じです。

冒頭にあるように、「こつ」は「骨」ということです。最終的には、自分の骨まで浸透し、身体全体に覚えさせるような、自分なりの要領が「こつ」ということなのでしょうか…。

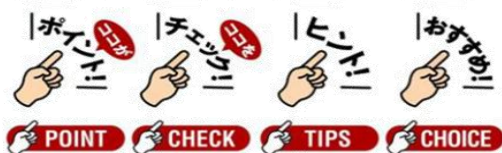
先日の校長先生のお話では「こつ」について言われました。

勝つコツとは、勝つために練習を工夫することが大切だと思います。

負けて悔しい、点数が伸びなくて悔しいなど経験してきた人が山ほどいます。

結果が出ている人は、そのために工夫し、努力している人です。

みんなも点数を伸ばすために、試合で結果を出すために、自分の行動を振り返り、工夫したり考えたりすることが大切です。これからも頑張っていきましょう!! (2年担任の先生より)



コツコツが勝つこつ! 昨日の自分より経験値+1を目指して頑張りましょう。(3年担任の先生より)